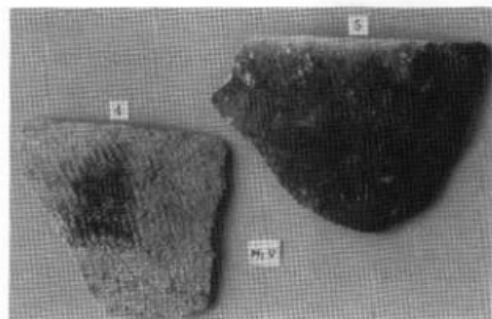
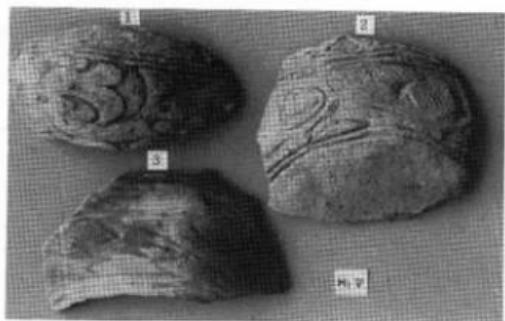
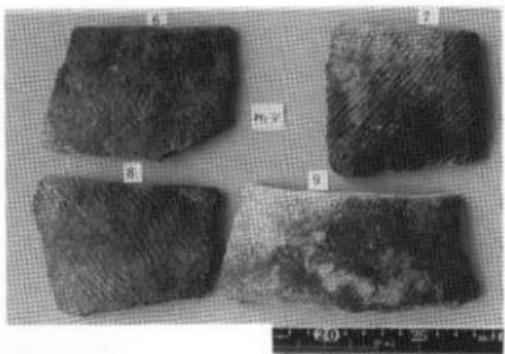


(H1 V出土)

☆ (1) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }☆ (2・3) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

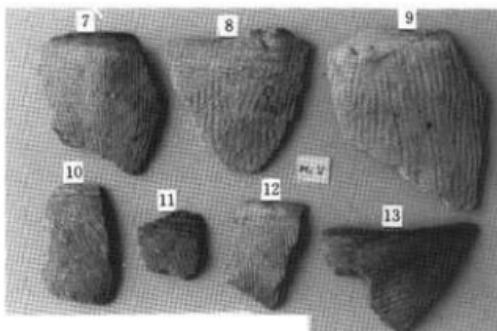
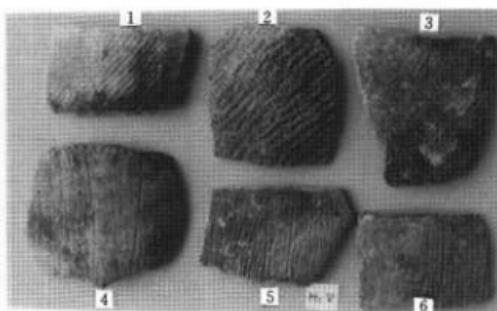
※ (1~3) は、精製土器

☆ (4・5) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }※ (4~9) → 口縁直下より縄文が施文  
されるもの。☆ (6~9) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

(H1 V出土)

☆ (1~3, 5~6) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

☆ (4) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



☆ (7・9・11・12) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (8・10・13) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

\* (7・9・11・12) は肩部が強く張る  
タイプである。

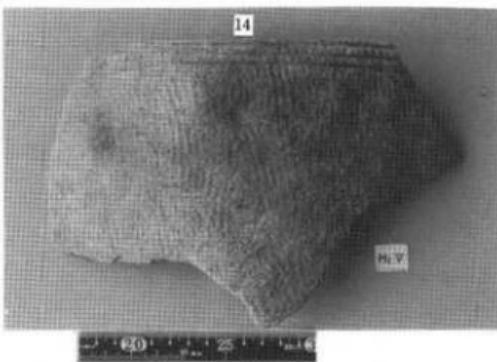
☆ (14) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

\* 口頭部に平行沈線文をもち、肩部下  
に斜行繩文を施文するタイプ。

\* 口縁直下より斜行繩文を施文するタ  
イプ。

\* 口縁直下より条痕文を施文するタ  
イプ。

\* (4) のように、円形剝突文と条痕  
文のあるタイプは稀少である。

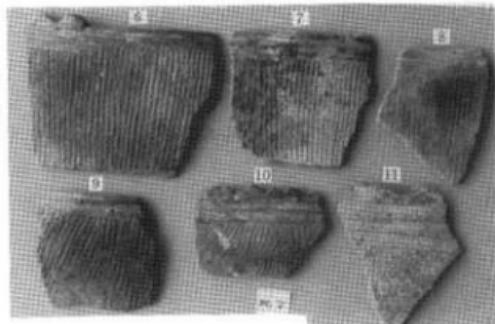
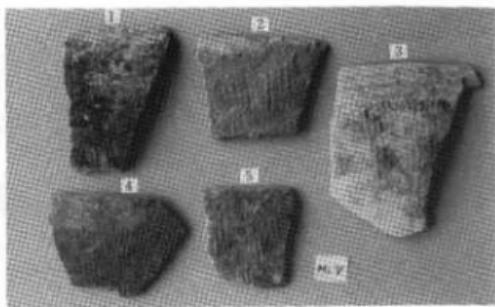


〔晩期の土器〕

B.P.L.41

(H1 V出土)

☆ (1~5) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

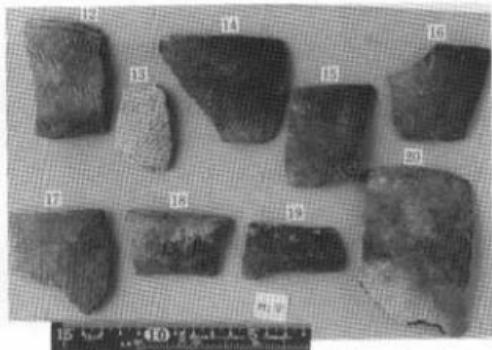


☆ (10) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (6~9・11) → { 第8群土器  
大洞C<sub>3</sub>式 }

☆ (12~14、20) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (15~19) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }



※ (1・2・4・5・17・18) → 口縁直下より条痕文を施文するもの。

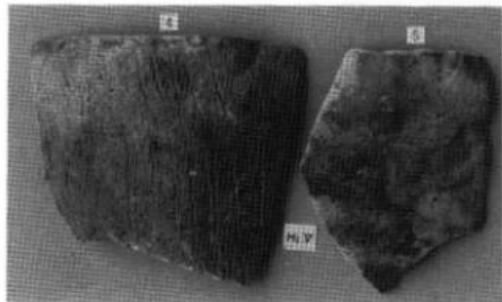
※ (3・6~8) → 口頸部に平行沈線文を有し、肩部下に単軸撲糸文の施文されるもの。

※ (9・11・19) → 口頸部に平行沈線文を有し、肩部下に斜行繩文が施文されるもの。

(H1 V出土)

☆ (1~10) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

※ (2・3) → 口縁直下より、縦文が施文されたタイプ。



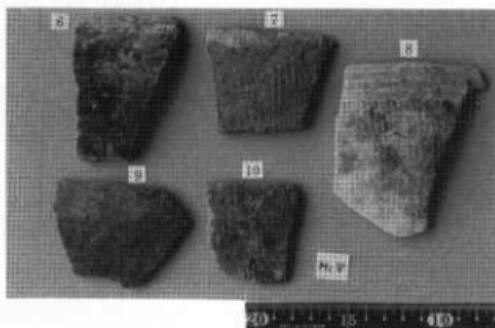
※ (5) は無文のタイプ。

※ (1) は、口頸部に平行沈線文が横走し、肩部以下には、条痕文が施文されるもの。

※ (8) は、横走する平行沈線が頸部に施文され、肩部下には、單軸撚糸文が横走するもの。

☆ (1・4・6・7・9・10) は、条痕文が施文されるものである。

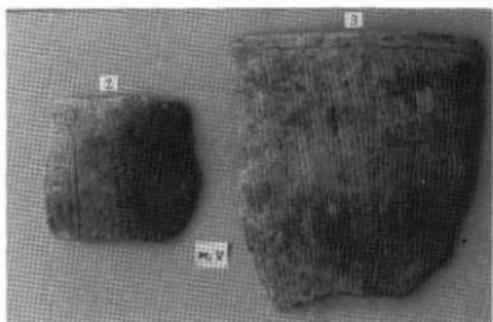
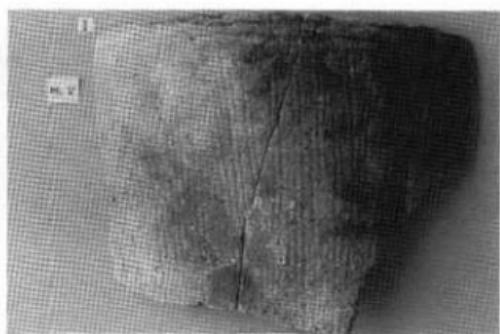
なお、これらのものは、a類→「平縁」のもの、b類→小突起を有するもの、c類→口縁～頸部が無文で肩部から条痕文の施文されるものに分けられる。



(H1 V出土)

☆ (1・3・5) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

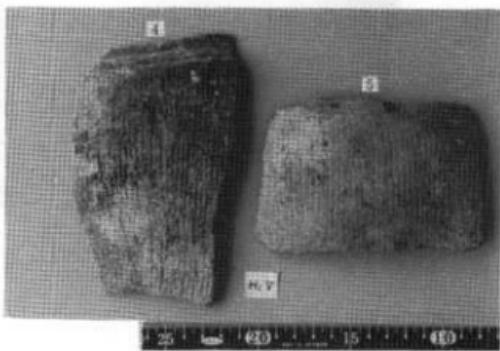
☆ (4) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式



※ (1・3・5) → 口頸部に平行沈線文を施し、肩部下に条痕文を施すもの。

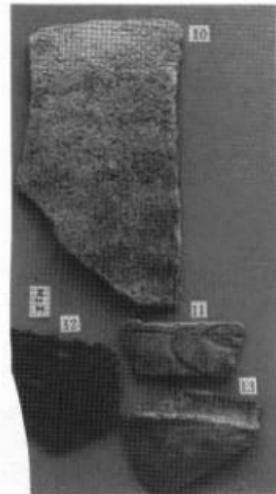
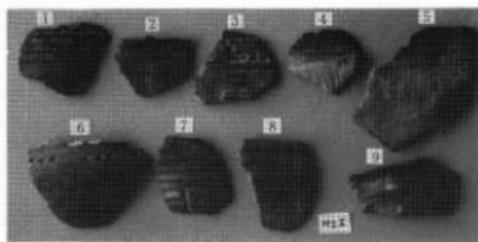
※ (2) → 口縁直下より条痕文が施されるタイプ。

※ (4) は、口縁が小波状を呈し、平行沈線文が横走し、肩部が急再度に張るタイプである。

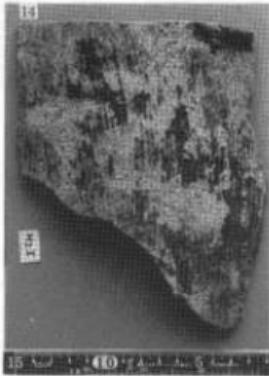


(H2 I 出土)

- ☆ (1 - 6) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (7 - 8) → { 第10群土器  
大洞A式 }



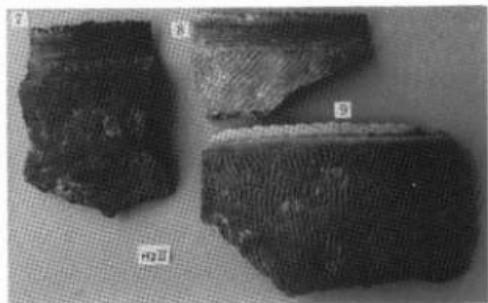
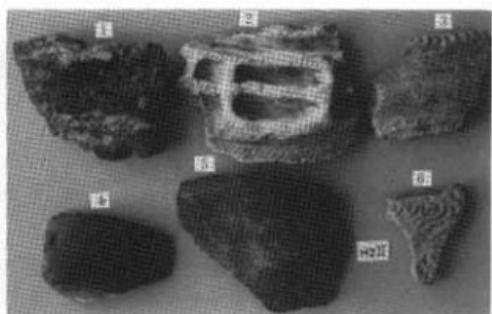
- ☆ (9 - 10 - 13 - 14) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }
- ☆ (11 - 12) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



(H2 II出土)

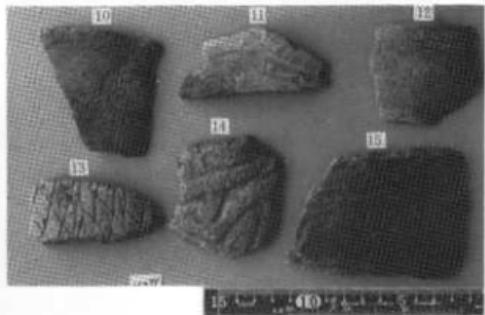
☆ (1) → { 第1群土器  
前期(円筒下層式) }

☆ (2・3・6) → { 第2群土器  
中期(円筒上層式) }



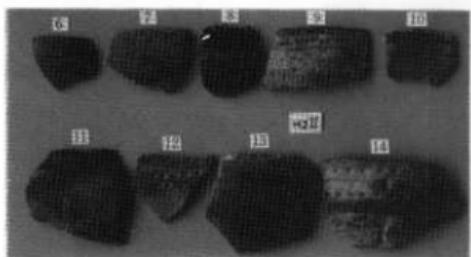
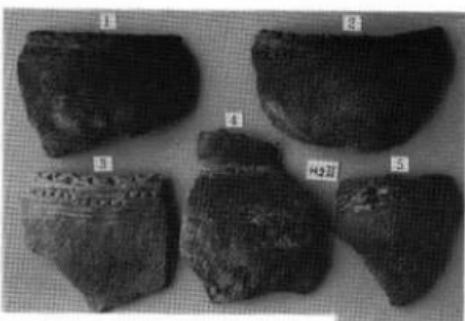
☆ (4・5・7~9) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

☆ (10~15) → { 第3群土器  
後期十腰内I式 }



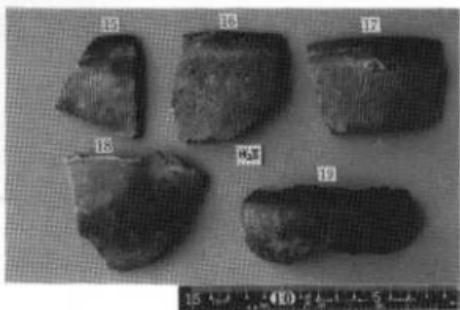
(H2 II出土)

- ☆ (1~5) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (8~9・11~14) → { 第8群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (6・7・10) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }



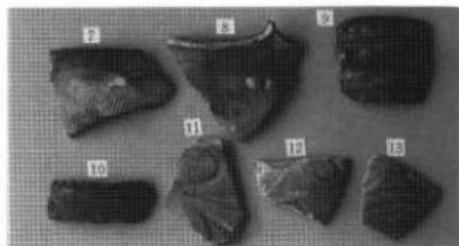
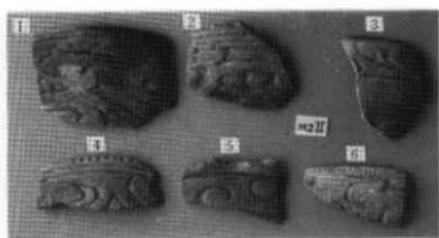
- ※ (6・7・10) → { 精製土器  
(朱ぬり) }

- ☆ (15~19) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (16~18) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }



(H2 II出土)

☆ (1~6) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式  
精製土器 }

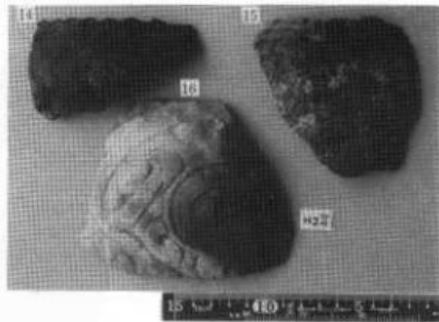


☆ (9~12) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (7・8・13) → { 第10群土器  
大洞A式 }

☆ (14~16) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

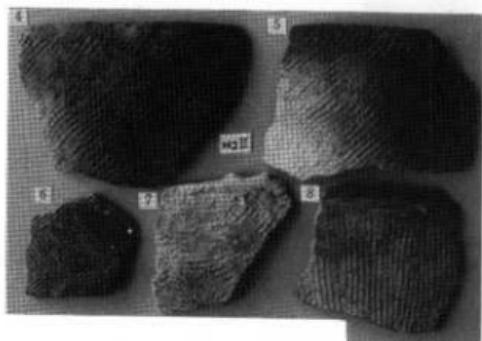
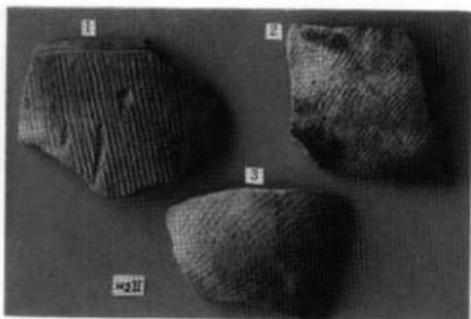
※ (9・10・14・15) → 粗製土器



## (H2 II出土)

☆ (1・8~10) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

※口縁部に平行沈線文が横走し、肩部下に單軸撚糸文の施文されるもの。



☆ (2~5・7) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

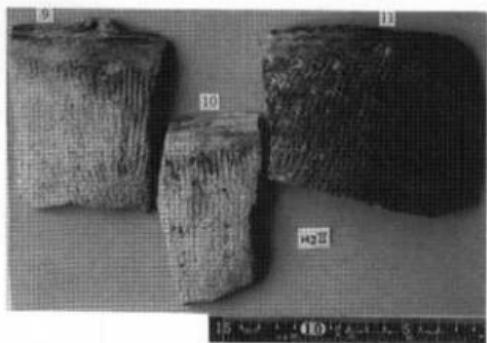
※口縁直下より斜行繩文が施文されるもの。

☆ (11) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

※口縁部に、平行沈線文が横走し、肩部下に斜行繩文が施文されるもの。

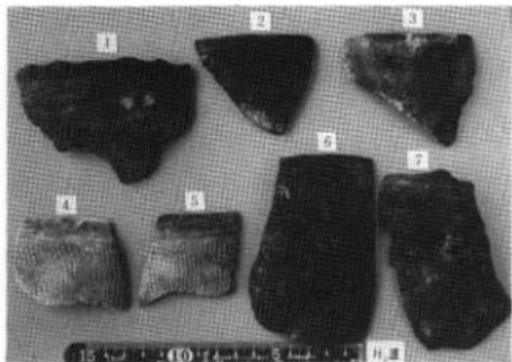
☆ (6) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式

※觀音林遺跡では、大洞C<sub>1</sub>式土器で「羽状繩文」が施文されるものは少ない。

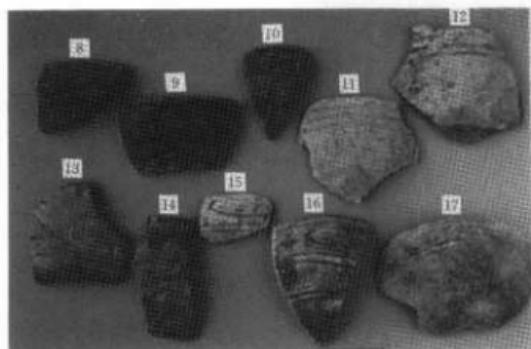


(H2Ⅲ出土)

- ☆ (1・2) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (3~6) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }
- ☆ (7) → { 第10群土器  
大洞A式 }

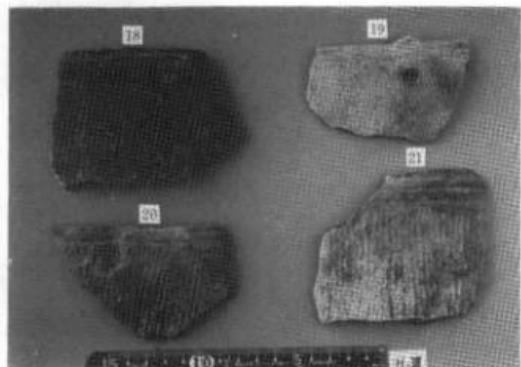


- ☆ (8・9) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (10~17) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }
- ※ (8~17) → 精製土器



- ☆ (18~21) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

窄口頸部に平行沈線文が横走し、肩部  
下に單軸捺糸文が縱走するもの。

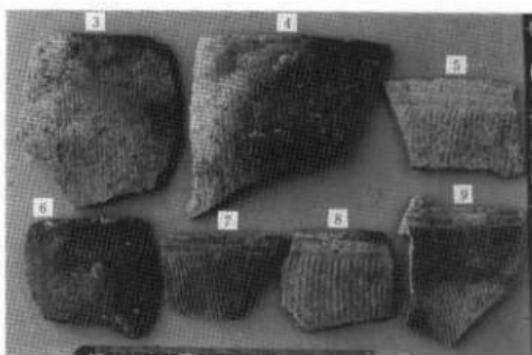
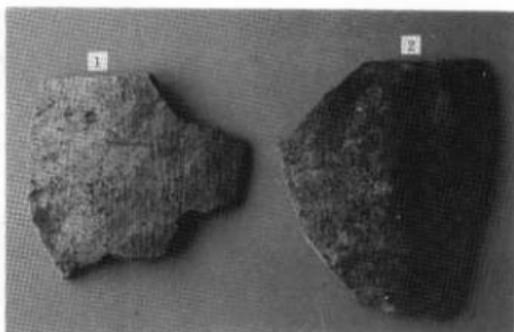


(H2Ⅲ出土)

☆ (1~3・6) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

\* 口縁直下より条痕文が施文されるもの。

☆ (4) → 口頸部に平行沈線文が施文され、輻走する条痕文があるもの。

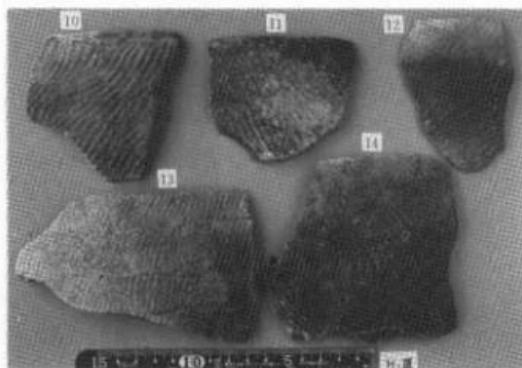


☆ (5・7~9) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

\* 口頸部に平行沈線文が横走し、肩部下に單軸撚糸文が施文されるもの。

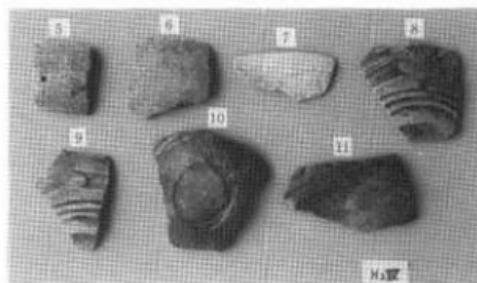
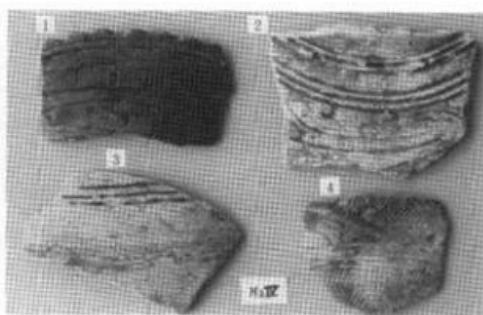
☆ (10~14) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

\* 口縁直下より斜行繩文が施文されるもの。



(H2 IV出土)

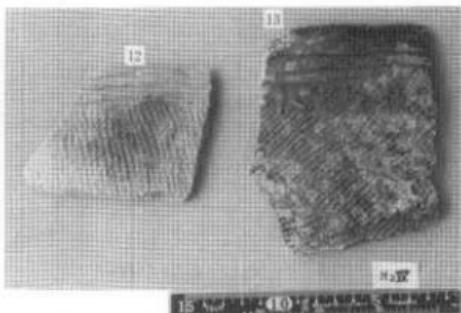
- ☆ (1・4) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (2・3) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }



- ☆ (5・6・8~11) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (7) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

- ☆ (12・13) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

△口頸部に横走する平行沈線文を有し、胴部には、斜行繩文が施文されるタイプ。



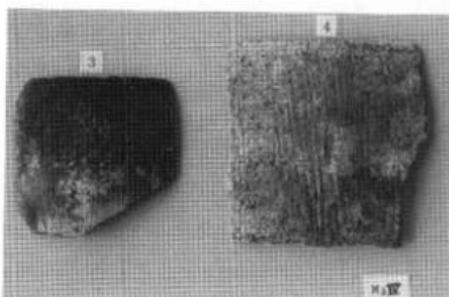
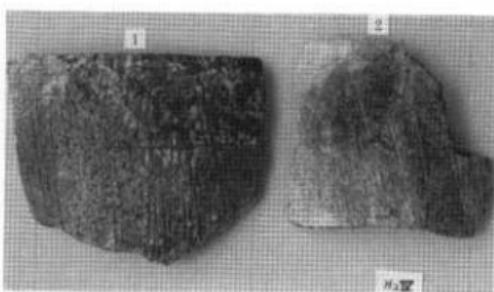
(H2 IV出土)

☆ (1~4) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

\* (1~4) は、条痕文が施文されるものであるが、

(1・3・4) は、口縁直下より条痕文が輻走するタイプ。

(2) は、口頸部が無文帶となり、肩部下に条痕文があるタイプ。

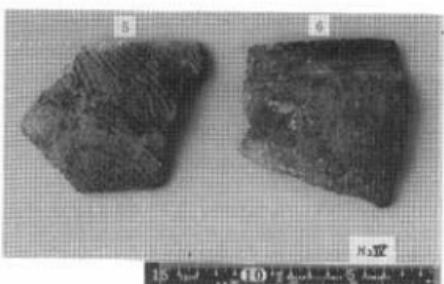


☆ (5) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

\* (5) は、口縁直下より斜行柵文が施文されるタイプ。

☆ (6) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

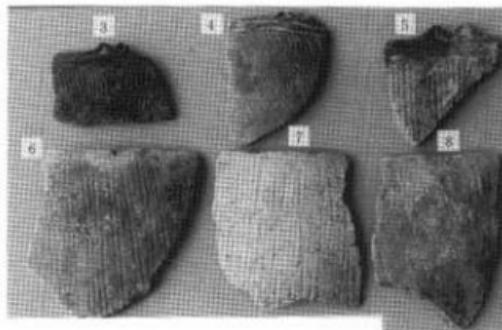
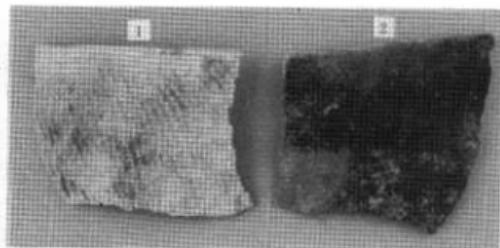
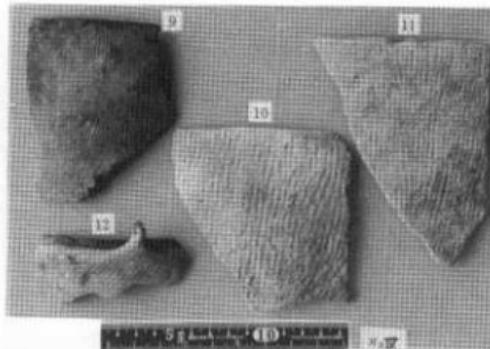
\* (6) は、頸部に平行沈線文が横走し、肩部下には条痕文が輻走するタイプである。



(H2IV出土)

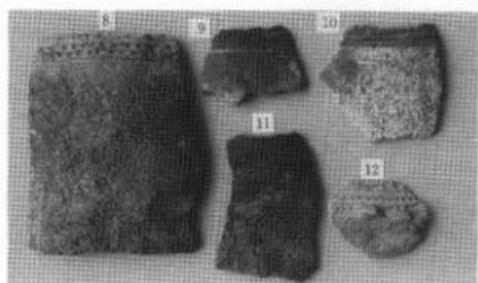
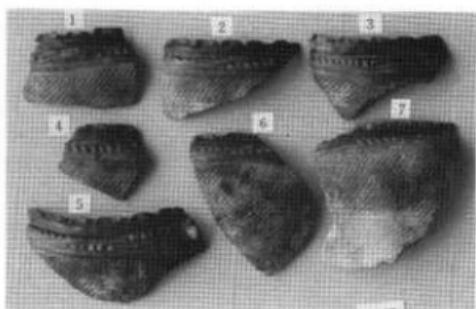
☆ (1・2・9~11) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }☆ (12) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

※ (12) → は、把手のある器形である。

☆ (3~5) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }※この(3~5)は、2こ1対の小突起  
を付すもので、頸部には平行沈線、肩  
部下には、斜行繩文、撲糸文(単軸)  
が施文されるタイプである。☆ (6~8) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }※(6~8は、口頸直下より条痕文)が  
施文されるタイプである。

(H2 IV出土)

☆ (1~7) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



☆ (8~12) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (13~17) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

※ (17) → 口縁に小突起をもち、頸部には、平行沈線文がめぐり、肩部下に条痕文が輻走するタイプ。



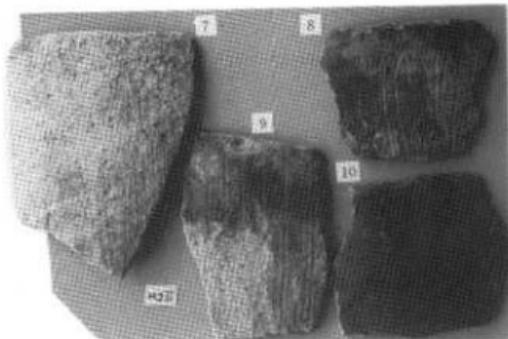
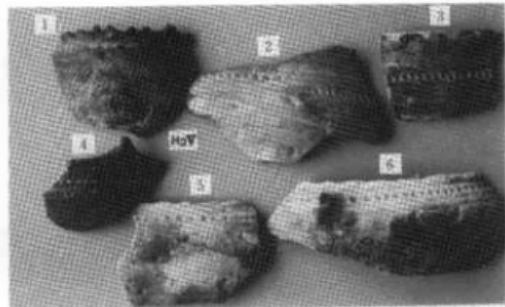
13 14 15 16 17 10

H2 IV

(H2 II・H2 V出土)

☆ (1~6) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

※ (1~6) は、刺突文のあるタイプ。

☆ (7~10) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }※ 口縁直下より条痕文が施文されるタイ  
プ。☆ (11~12) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }☆ (13) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }☆ (14~17) ~ { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

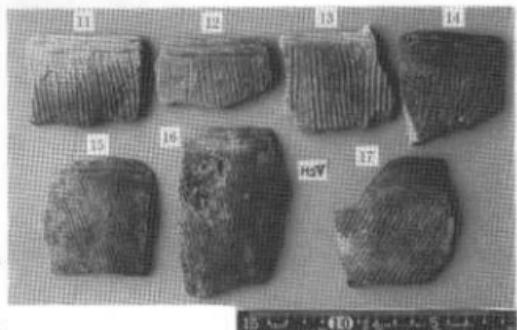
※ (11~12) は、条痕文のあるもの。

(13) は單軸撚糸文の施文されたもの。

(14~17) は斜行繩文の施文されたも

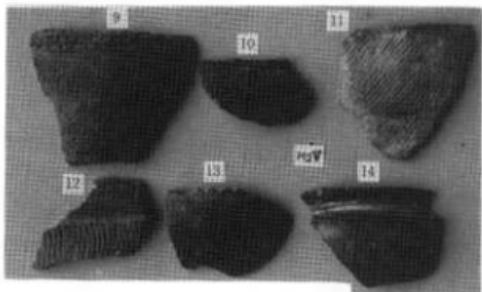
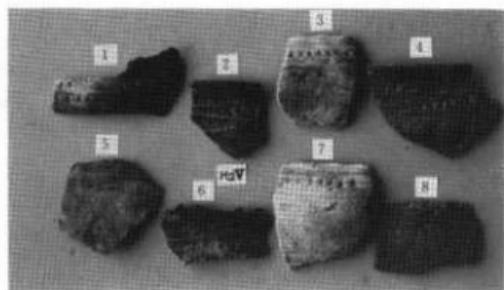
のであるが、これらの (11~17) には、

頸部に平行沈線文がめぐる。



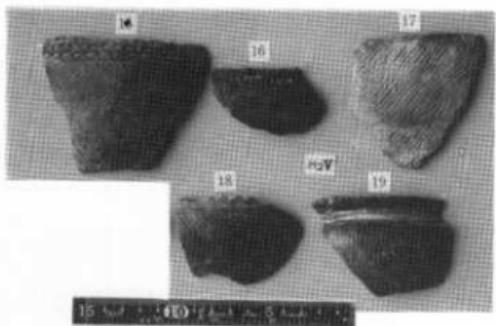
(H2V出土)

☆ (1~8) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



☆ (9~14) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

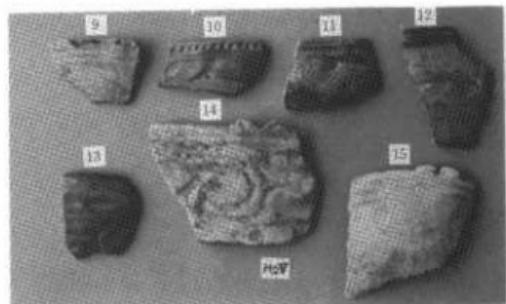
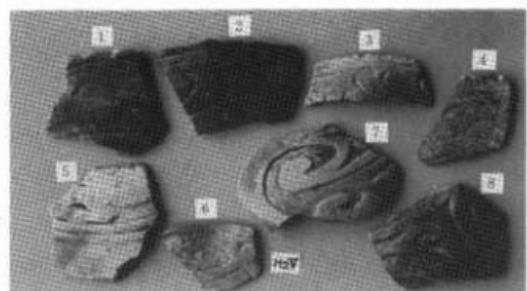
☆ (15~20) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



(H2V出土)

☆ (1~8) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

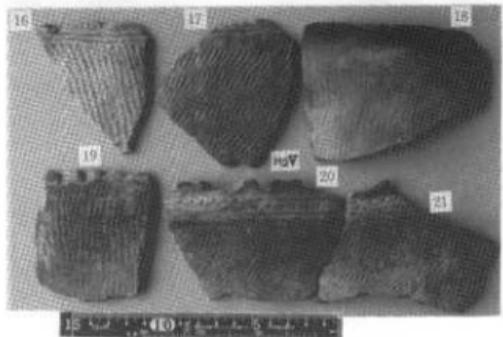
※ (1~8) は、精製土器



☆ (9~12) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

☆ (14~15) → { 第8群土器  
大洞C2式 }

☆ (13) → { 第10群土器  
大洞A式 }



☆ (16~21) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

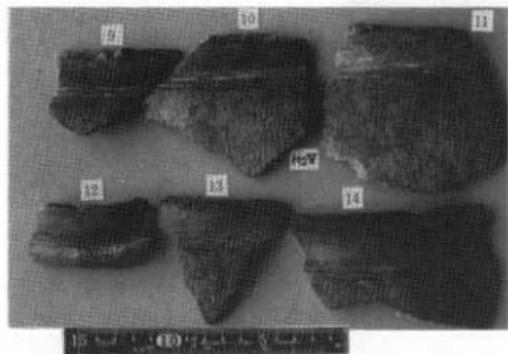
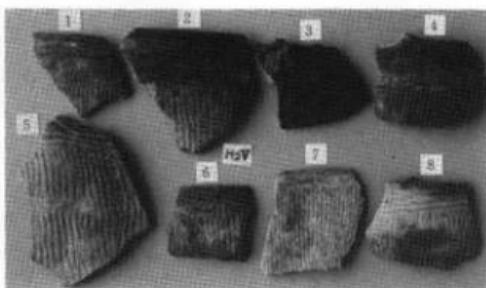
(H2V出土)

☆ (2・9・10) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

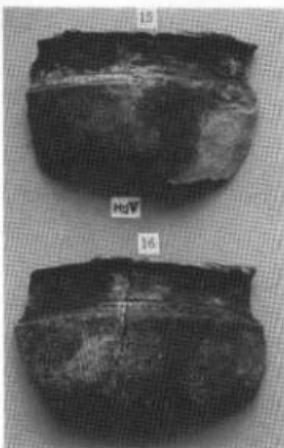
※このものは、同一個体である。

☆ (3・4・5) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

☆ (1・6~8) → { 第8群土器  
大洞C2式 }



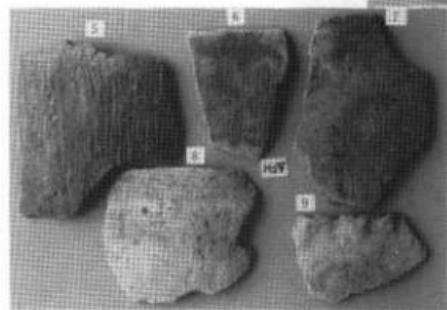
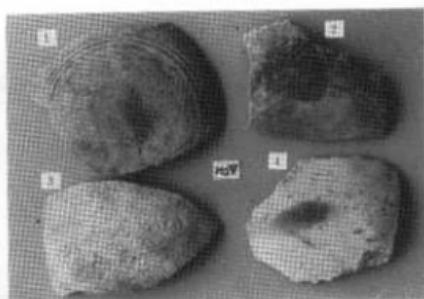
☆ (11・13) → { 第8群土器  
大洞C2式 }



☆ (12・14~16) → { 第8群土器  
大洞C2式 }

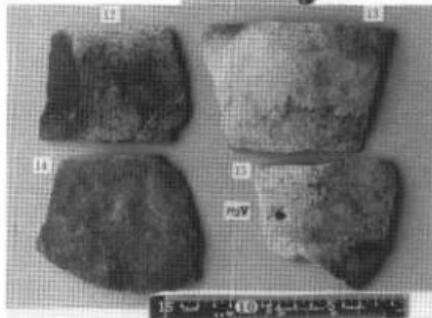
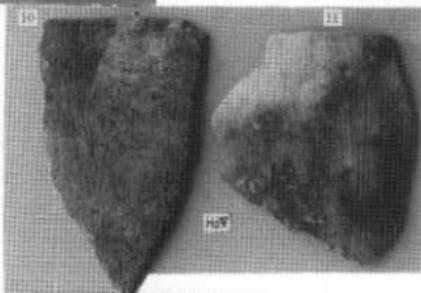
(H2V出土)

☆ (1~4) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }  
※ (1~4) は、精製土器



☆ (5~7, 8・10~15) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }  
※ (5~7, 8・10~15) は、口縁直下より  
条痕文が施文されるタイプである。

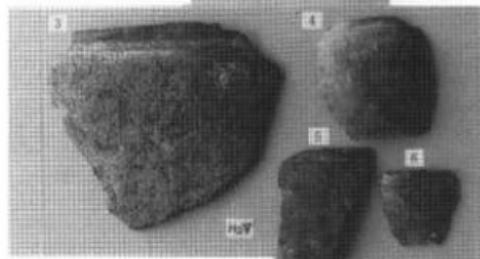
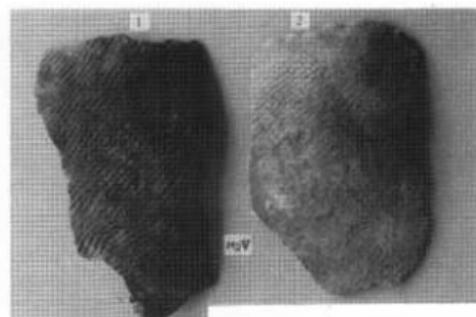
☆ (9) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



(H2V出土)

☆(1・2) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

※口縁が小波状を呈し、斜行繩文の施  
文されるもの。



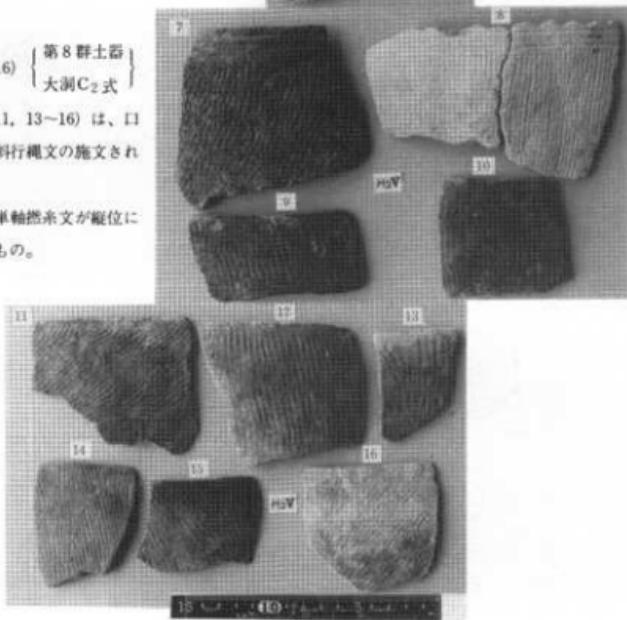
☆(3~6) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆(8) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆(7・9~16) { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

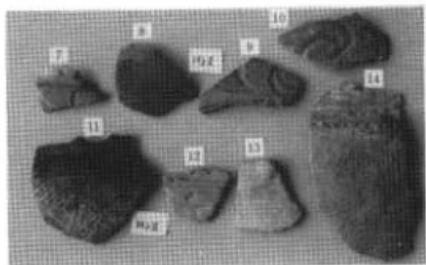
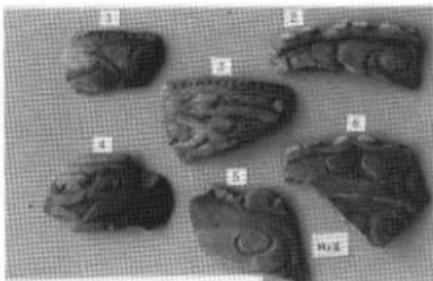
※(7・9~11, 13~16)は、口  
縁直下より斜行繩文の施文され  
るタイプ。

☆(12)は、單軸撚糸文が縦位に  
施文されるもの。

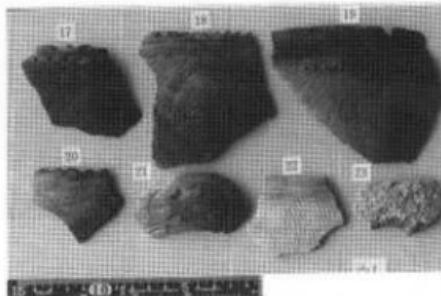
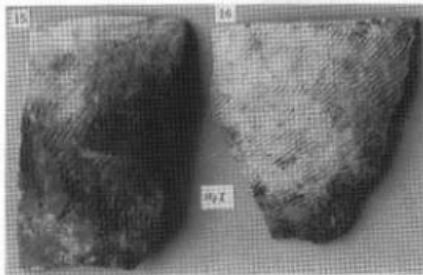


(H2 I . H3 II 出土)

※ (1~7, 9~10) は精製土器である。

☆ (1~6) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式☆ (7~14) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式☆ (15~16) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

※この(15~16)は、既述したように、口縁直下より斜行繩文が施文されるタイプである。

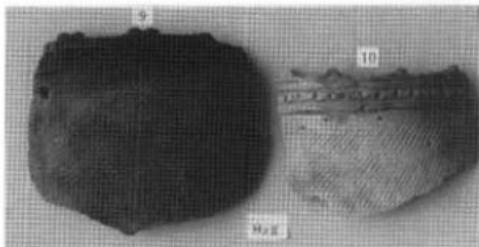
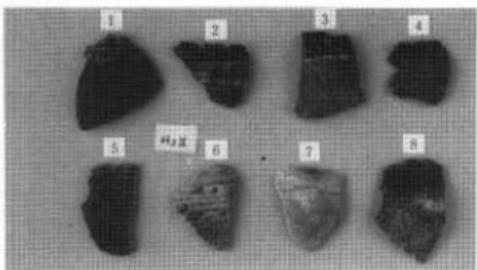
☆ (17~20・21) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式☆ (22) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

※(22)は、口縁部に平行沈線文が横走し、胴部には、單軸撚糸文が施文されるタイプである。

☆ (23) → 第1群土器  
円筒下層式

(H3 II出土)

☆ (1~8) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



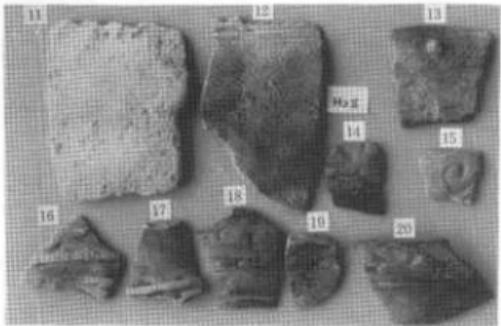
☆ (9~10) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (11~12, 14~20) → { 第7群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

☆ (13) → { 十腰内V式? }

(この十腰内V式は、わずか2片の出土であるため、群別せず)

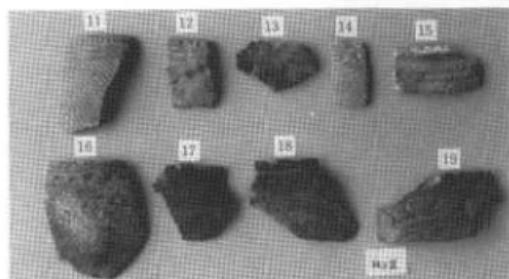
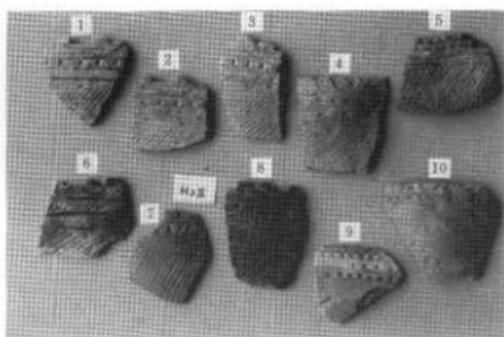
※ (14~20) は、精製土器。



15 16 17 18 19 20

(H3 II出土)

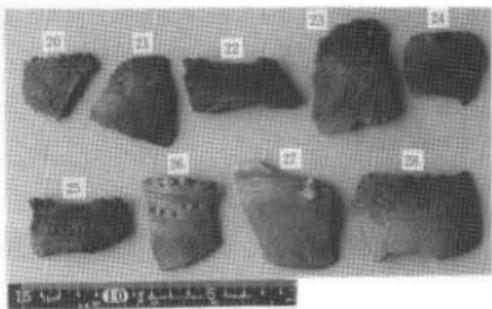
☆ (1~10) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



☆ (11~19) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

※ (13・19) → 精製土器

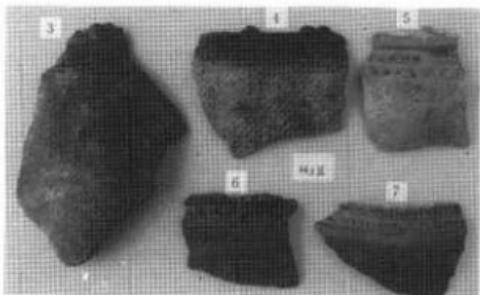
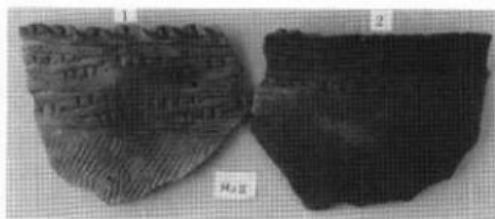
☆ (20~28) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



(H3 II出土)

☆ (1・2) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

※ (1) は、大洞B・C～大洞C<sub>1</sub>  
式の中間か？



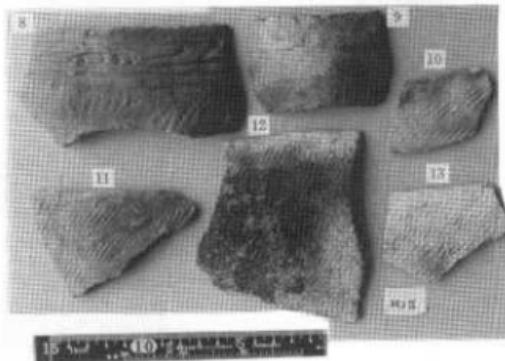
☆ (3～7) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (8) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

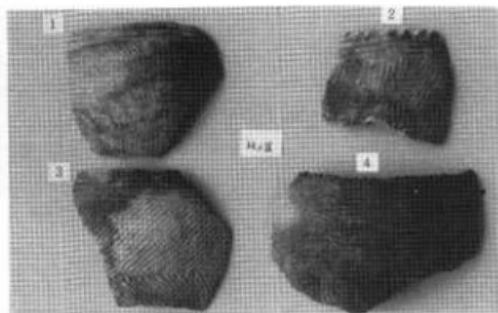
☆ (9～13) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }

※このうち、(9) は無文のもので、

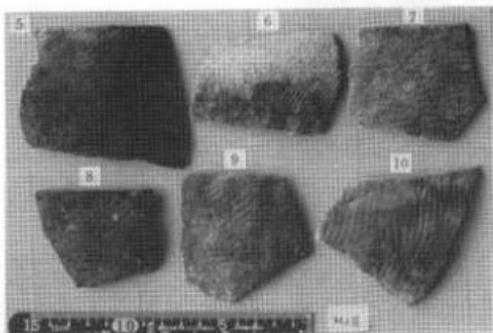
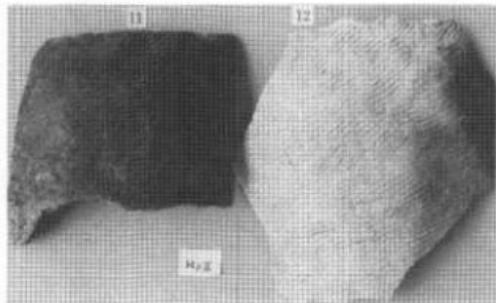
(10～13) は、口縁直下より斜行繩  
文が施文されるタイプである。



(H3 II 出土)

☆ (1・3) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }☆ (2・4) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

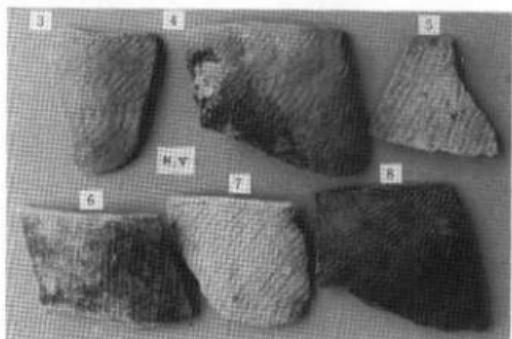
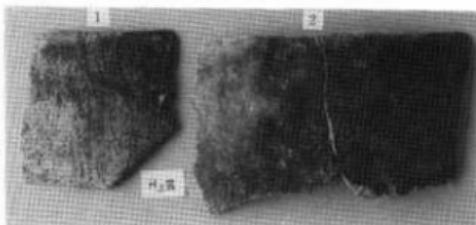
※ (5~11) は、口縁下より斜行繩文が施文  
されるタイプ。

☆ (5~10) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }※ (1・2) は、平行沈線文と斜行繩文、  
羽状繩文の施文されるもの。※ (2・4) は、口縁が小波状を呈し、  
(2) は平行沈線文と斜行繩文、  
(4) は、横走繩文が施文されるもの。☆ (11) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }☆ (12) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

(H3Ⅲ、H3Ⅴ出土)

☆ (1・2・6) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

※これらは、口縁直下より条痕文が施文されるタイプである。



☆ (3~5、7・8) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

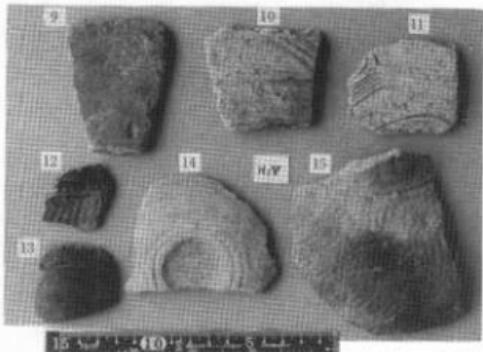
※これらのものは、口縁直下より斜行  
縄文が施文されるタイプである。

☆ (9) → 第4群土器  
十腰内I・II式の中間  
に位置する型式

☆ (10・11) → 第3群土器  
十腰内I式

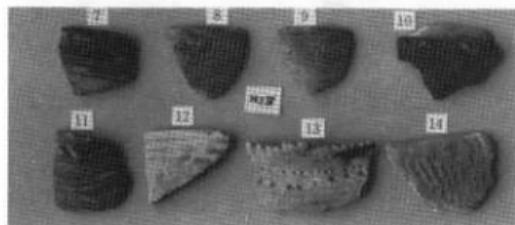
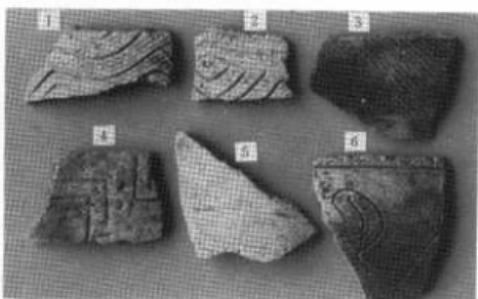
☆ (12・13) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式

☆ (14・15) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式



(H3 V出土)

☆ (1~6) → { 第4群土器  
十腰内I・II式の  
中间型式 }



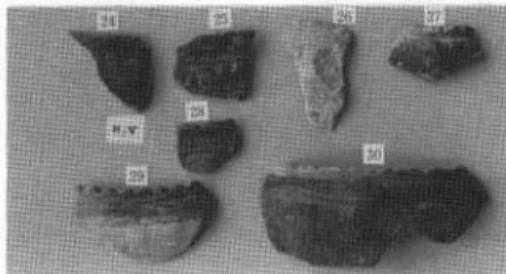
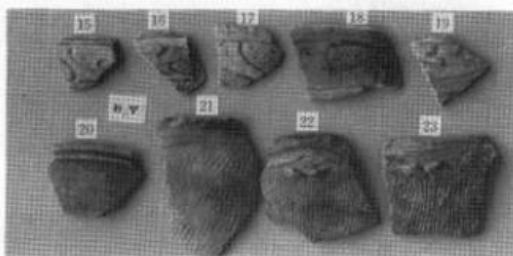
☆ (7~10・13) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

☆ (11・12・14) → { 第8群土器  
大洞C2式 }

☆ (15~19, 21~23) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

☆ (20) → { 第8群土器  
大洞C2式 }

※ (15~17) は、精製土器



☆ (24~30) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

## (A S C 区)

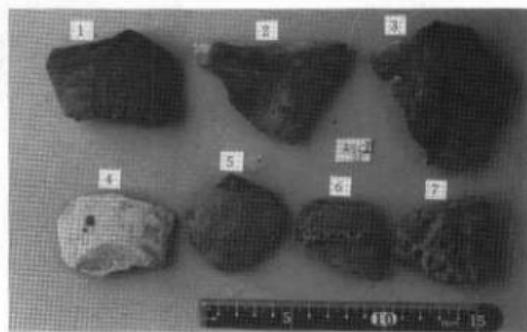
☆ (1-3・6) → 第3群土器  
十腰内I式

☆ (4) → 第11群土器  
土師器环形

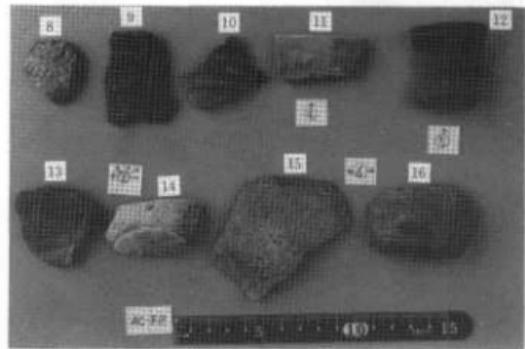
☆ (6) → 第5群土器  
十腰内II式?

☆ (7) → 第2群土器  
円筒上層式

\* (3) は、中期末か?



## (A C ~ F 区)



- ☆ (8-13) → 第3群土器 (十腰内I式)
- ☆ (9-10-15) → 第8群土器 (大洞C2式)
- ☆ (11) → 第4群土器 (十腰内I・II式の中間型式)
- ☆ (12) → 第12群土器 (須恵器)
- ☆ (14) → 第11群土器 (土師器)
- ☆ (16) → 第1群土器 (円筒下層式)

◎ 例 ⑧ の⑧はグリット番号

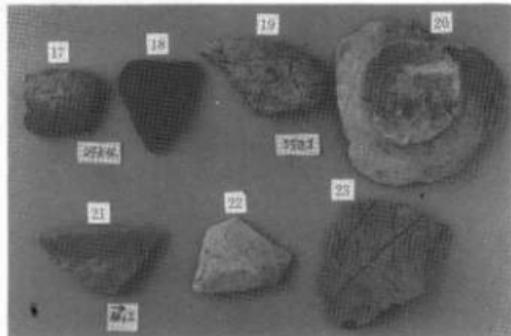
## (2号土塚・5号住I・AN4 I)

☆ (17) → 繩文土器

☆ (18-20-21-22) → 第11群土器  
土師器

☆ (19-23) → 第3群土器  
十腰内I式

◎ B.P.L68-B.P.L78には、  
各区より出土した土器を掲示した。



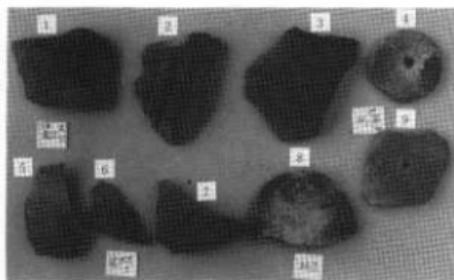
[各区出土の土器]

B.P.L.69

☆ (1・2) → { 第3群土器  
十腰内 I式 }

{ ASC区  
p i t a  
H3 III  
H3 I }

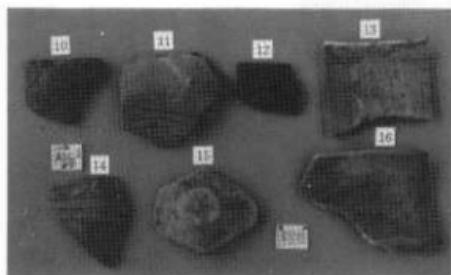
☆ (3) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }



☆ (4・9・8)  
〔円盤状土製品〕

☆ (5・6・7) →  
{ 第12群土器  
須恵器 }

{ ASC区  
5号住 }



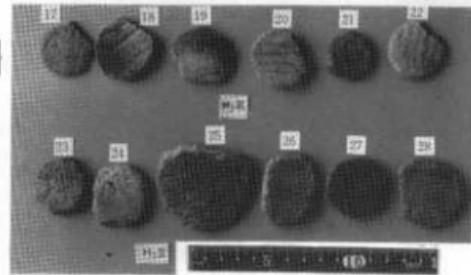
☆ (13・15・16) → { 第11群土器  
土師器(环・甕) }

☆ (10・11) → { 第3群土器  
十腰内 I式 }

☆ (12) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

☆ (14) → { 第10群土器  
大洞A式 }

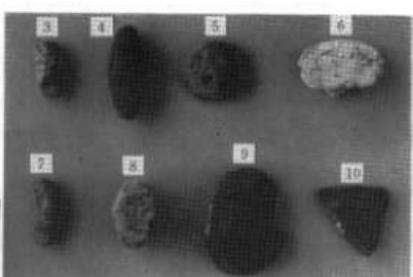
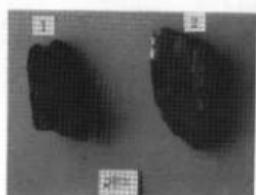
☆ (17~28)  
〔円盤状土製品〕 { H3 III  
H3 II }



〔各区出土の土器〕

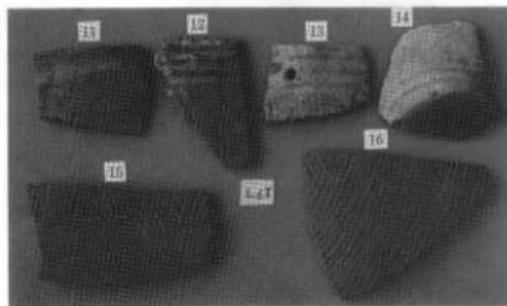
B.P.L70

- ☆ (1・2) → (2号住居址内木炭)
- ☆ (3・7) → 土偶脚部
- ☆ (4) → 装身貝
- ☆ (5) → ミニチュア皿形(異形土器)
- ☆ (6) → キノコ型土製品
- ☆ (8・9) → スタンプ状土製品



☆ (10) → 須恵器

(L6 I)



☆ (11) → 第11群土器  
土師器(甕)

☆ (12・13・14) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

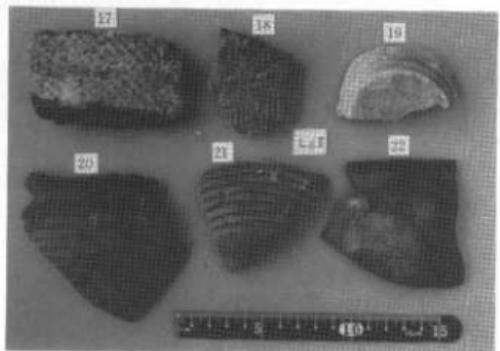
☆ (15・16) → 第12群土器  
須恵器(甕)

(L6 I)

☆ (17・18) → 第1群土器  
円筒下唇式

☆ (19・22) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式

☆ (20・21) → 第10群土器  
大洞A式

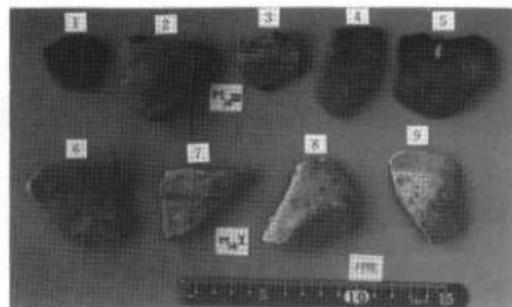


[各区出土の土器]

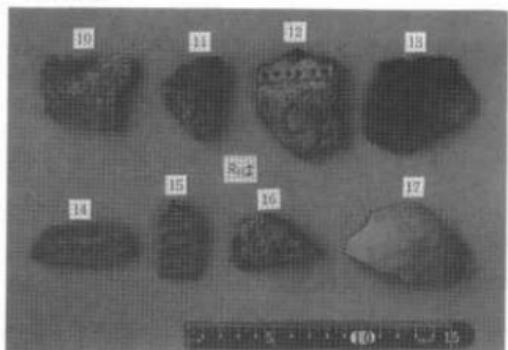
B.P.L.71

(M14 III  
M14 I  
1号住居址)

- ☆ (1・2・6・7) → 第3群土器  
十腰内I式
- ☆ (3・5) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式
- ☆ (4) → 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式
- ☆ (8・9) → 第11群土器  
土師器(环)

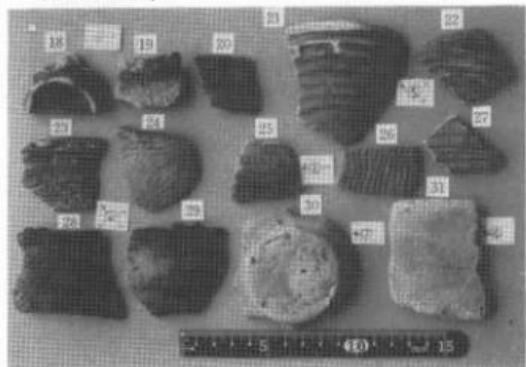


(R15 I)



- ☆ (10・11) → 第3群土器  
十腰内I式
- ☆ (12) → 第5群土器  
十腰内II式
- ☆ (13・14) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式
- ☆ (15) → 第10群土器  
大洞A式
- ☆ (16) → 第1群土器  
円筒下唇式
- ☆ (17) → 第11群土器  
土師器(环)

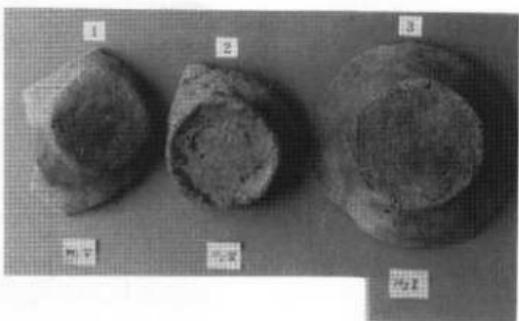
(A C ~ F区)



- ☆ (18・19) → 第8群土器  
大洞C<sub>1</sub>式?
- ☆ (20・23・~25, 28・29) → 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式
- ☆ (21・22・27) → 第10群土器  
大洞A式
- ☆ (26) → 第12群土器  
須恵器(麦)
- ☆ (30) → 第11群土器  
土師器(环)
- ☆ (31) → 第4群土器  
十腰内I・II式  
の中間型式

$$\begin{pmatrix} H_1 V \\ H_2 IV \\ H_3 I \end{pmatrix}$$

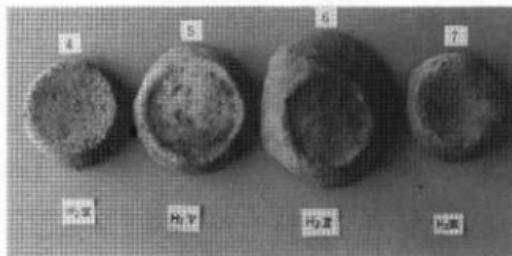
☆ (1 ~ 3) → (後期)



$$\begin{pmatrix} H_2 IV \\ H_1 V \\ H_3 II \\ H_2 III \end{pmatrix}$$

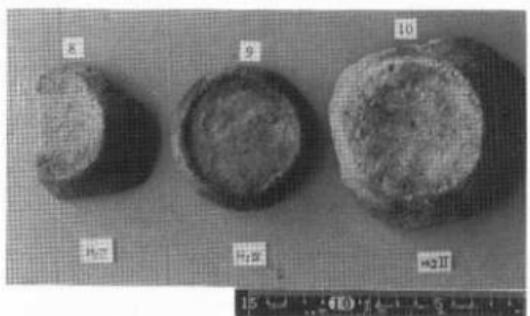
☆ (4 ~ 7) → (後期)

☆ (5 ~ 6) → (晩期)



$$\begin{pmatrix} H_1 II \\ H_1 IV \\ H_2 II \end{pmatrix}$$

☆ (8 ~ 10) → (晩期)

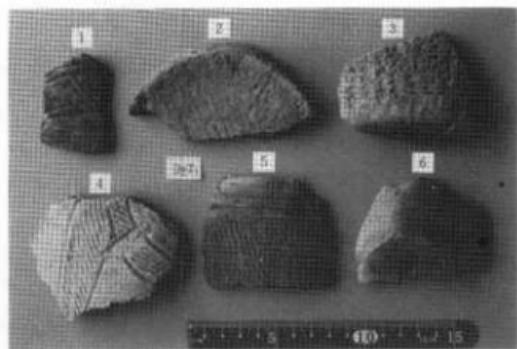


## (D8 I 下)

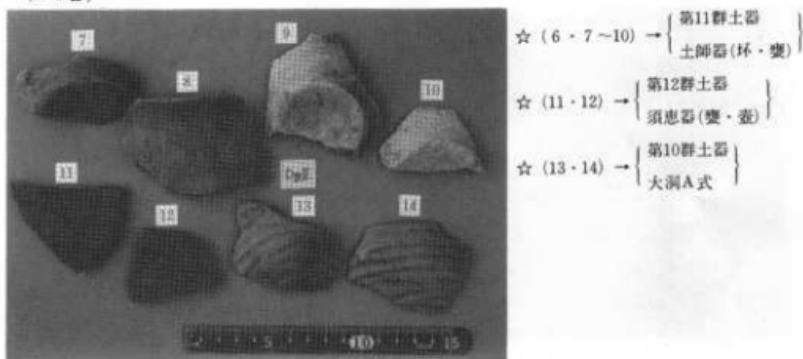
☆ (1・4) → { 第3群土器  
十腰内I式 }

☆ (2) → { 第2群土器  
円筒上層式 }

☆ (3) → { 第1群土器  
円筒下層式 }



## (D8 II)



## (A S L13 I)

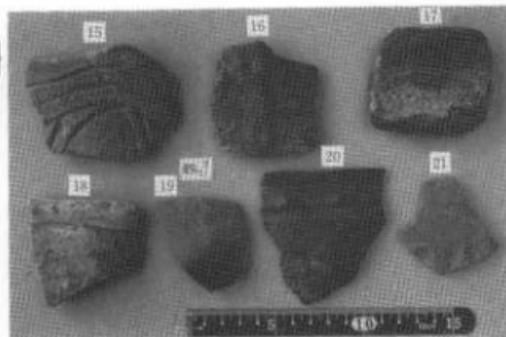
☆ (15・16・18) → { 第3群土器  
十腰内I式 }

☆ (17) → { 第1群土器  
円筒下層式 }

☆ (19) → { 第11群土器  
土師器(甕) }

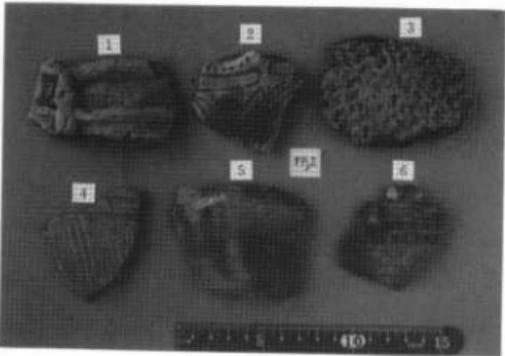
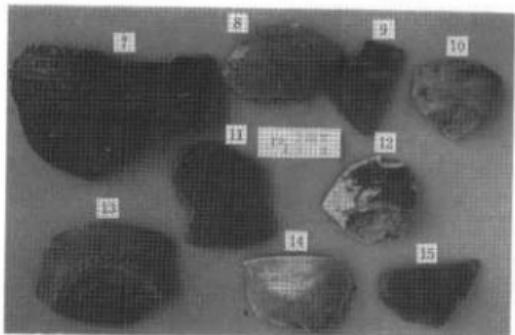
☆ (20) → { 第10群土器  
大洞A式 }

☆ (21) → { 第12群土器  
須恵器(壺) }



## (TP2 I)

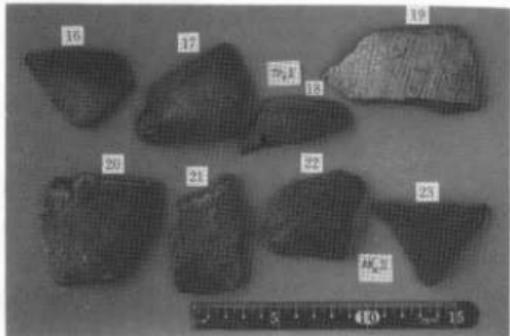
- ☆ (1・2) → { 第3群土器  
十腰内I式 }
- ☆ (3) → { 第1群土器  
円筒下層式 }
- ☆ (4) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }
- ☆ (5) → { 第4群土器  
十腰内I・II式  
の中間型式 }
- ☆ (6) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }

(TP1 上段 II)  
(下段 I)

- ☆ (7・13) → { 第7群土器  
大洞C<sub>1</sub>式 }
- ☆ (8・11) → { 第12群土器  
須恵器(甕・壺) }
- ☆ (9・15) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式? }
- ☆ (10・12・14) → { 第11群土器  
土師器(环) }

(TP4 I)  
(AN4 II)

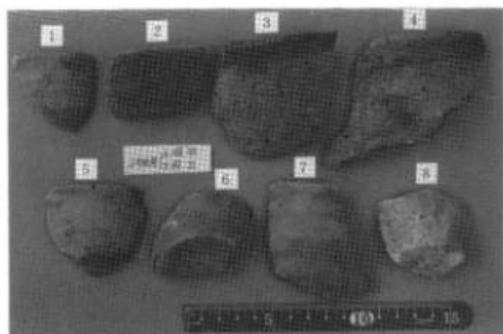
- ☆ (16・17) → { 第12群土器  
土師器(环) }
- ☆ (18・19・22) → { 第8群土器  
大洞C<sub>2</sub>式 }
- ☆ (20・21) → { 第3群土器  
十腰内I式 }



(2号住居址 上段Ⅲ)  
下段Ⅱ)

☆ (1・5・6) → { 第12群土器  
土師器(杯) }

☆ (2~4, 7~8) → { 第12群土器  
土師器(甕) }



(2号住居址 上段Ⅲ)  
下段Ⅱ)



☆ (9) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

☆ (10) → { 第10群土器  
大洞A式 }

☆ (11) → { 第8群土器  
大洞C2式 }

☆ (12・13) → { 第11群土器  
土師器(杯) }

☆ (14・15) → { 第1群土器  
円筒下層式 }

(2号住居址 I)

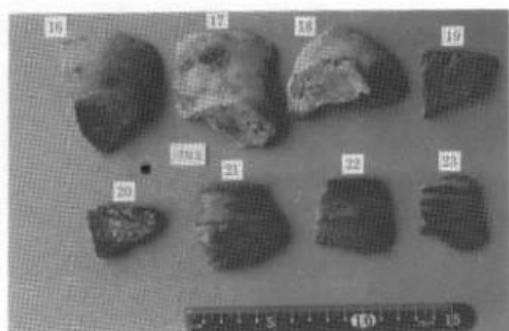
☆ (16~18) → { 第11群土器  
土師器(杯) }

☆ (19) → { 第12群土器  
須恵器(甕) }

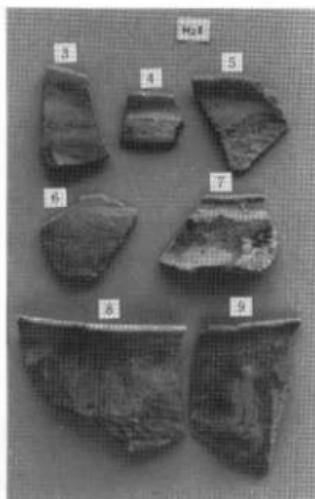
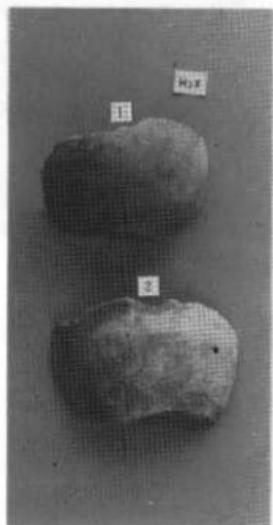
☆ (20) → { 第7群土器  
大洞C1式 }

☆ (21) → { 第8群土器  
大洞C2式 }

☆ (22・23) → { 第10群土器  
大洞A式 }



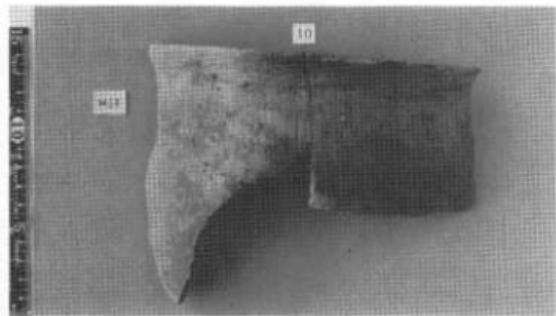
(H2 I 出土)



☆ (3・4・5・6) → { 第11群土器  
土師器(杯) }

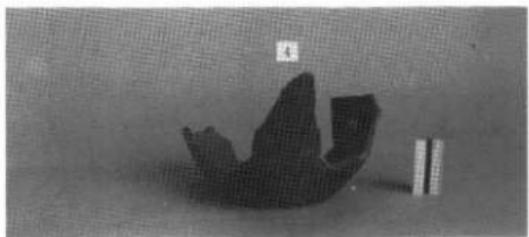
☆ (1・2) → { 第11群土器  
土師器(碗 or 壺) }

☆ (7~9, 10) → { 第11群土器  
土師器(壺) }

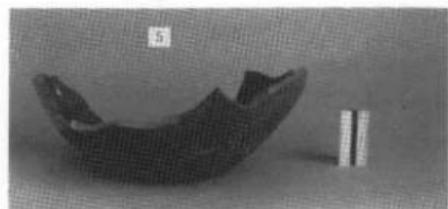


● (1~10) は、いずれも「東北北部の土師器型式」第2型式である。

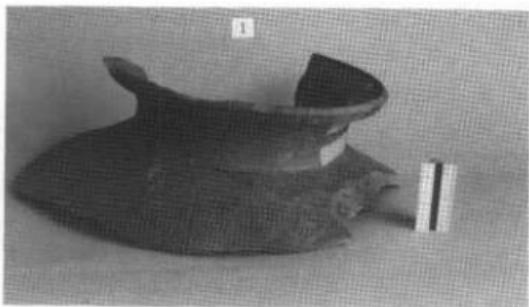
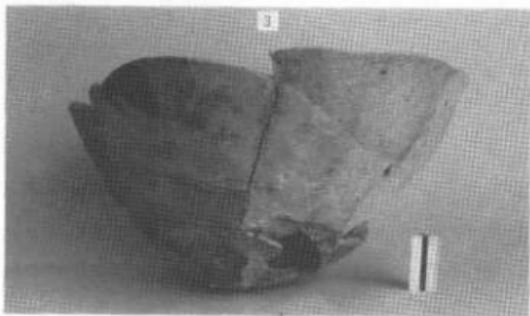
(第2号住居址)  
床面出土



☆ (1~5) → { 第12群土器  
須恵器(長頸壺) }



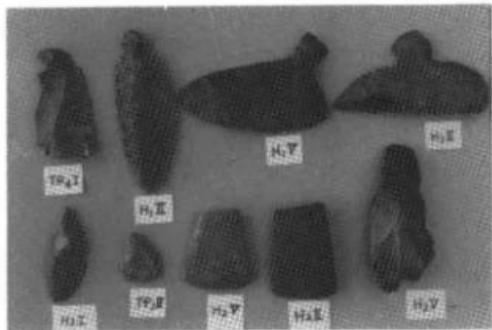
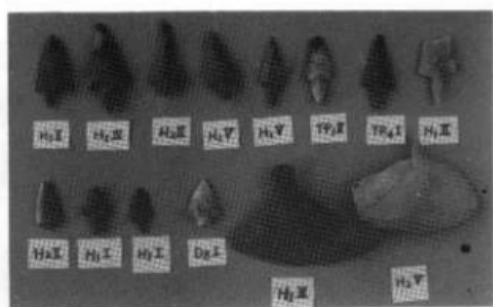
※これらの須恵器は、次のB.P.L.78-(1・2・3)とともに、第2号住居址の床面上から出土した。  
この(1~5)は、長頸(細口)壺で、器形から、前田野目墓址群出土のものと類似するものである。

(第2号住居址)  
(床面出土)☆(1~3) { 第12群土器  
須恵器(甕) }

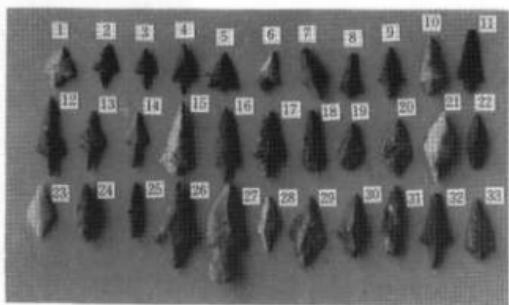
● この(1~3)も、B.P.L77-(1~5)と同様、第2号住居址の床面より出土した一括資料である。いずれも大形の須恵器甕であり、器形から、B.P.L78で述べた「前田野目窯址群」出土のものと同様であろう。

※写真内のカードは、出土グリット・出土層をあらわす。

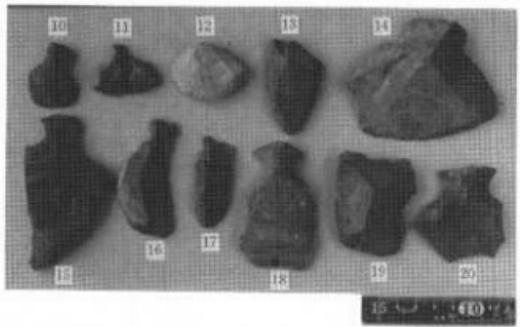
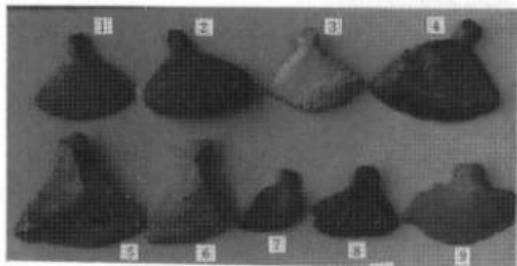
(例) (H<sub>3</sub>II-H<sub>3</sub>グリットII)  
(層出土の意)



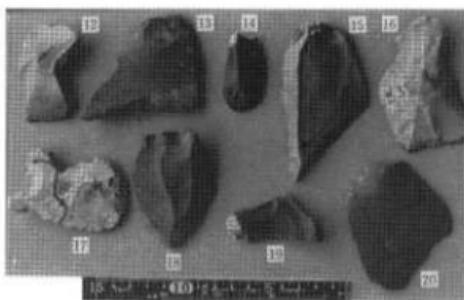
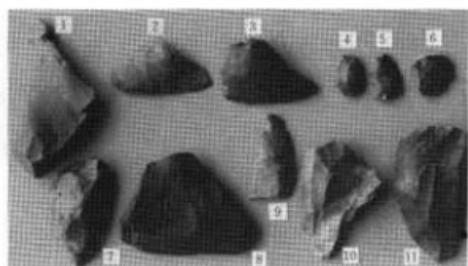
(石鎌) 1~33



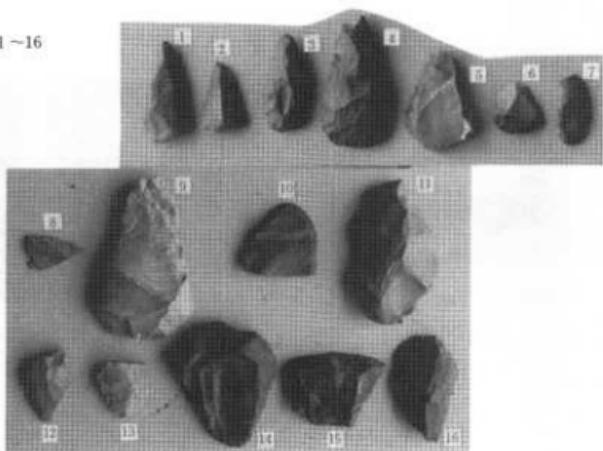
(削器) 1~20



(削 器) 1~20



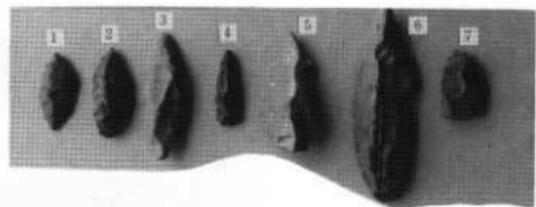
(搔 器) 1~16



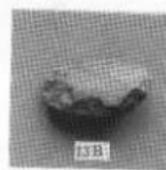
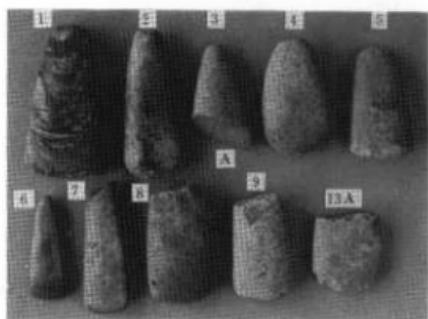
〔石槍・石斧〕

S.P.L. 3

(石槍) 1~7

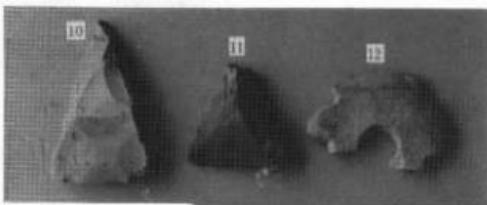


(石斧) 1~12. (13) A



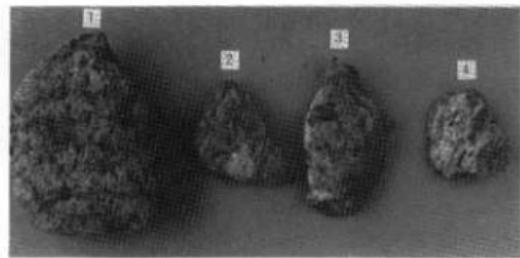
☆ (13B) →半円状

扁平石器か?



(☆12=多頭石斧)

(浮石製品) 1 ~ 8

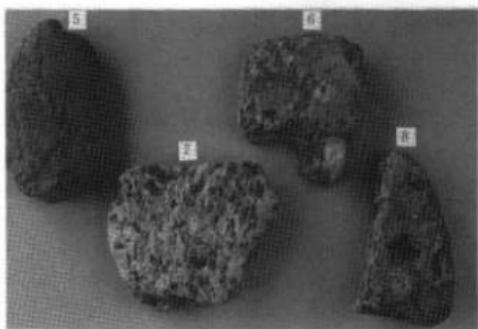


5

6

7

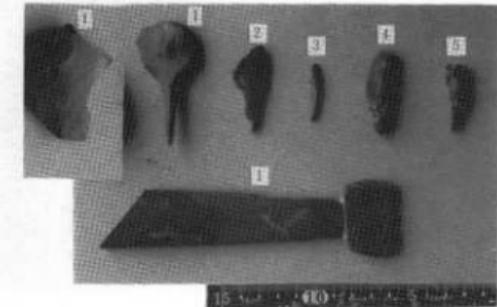
8



(挿入石器) 1

(石錐) 1 ~ 5

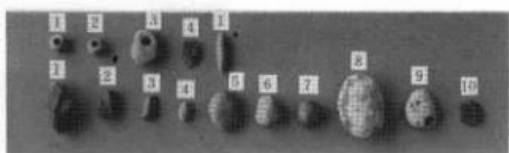
(石刀) 1



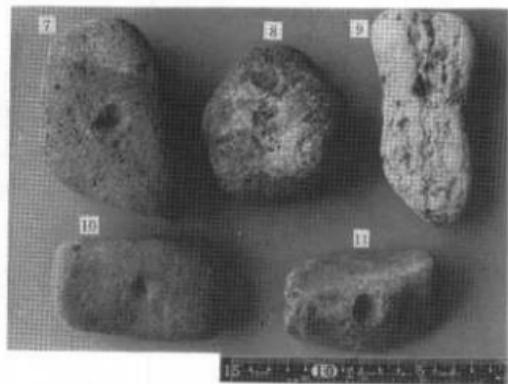
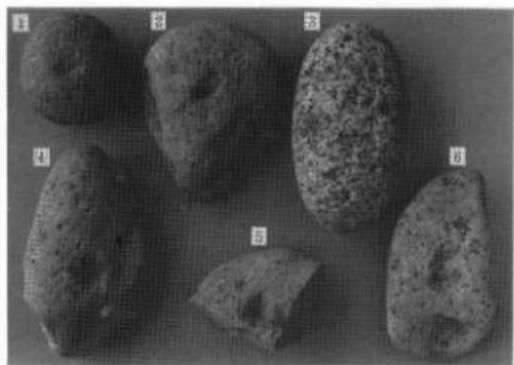
(穿孔のある小玉) 1~4

(装身具) 1

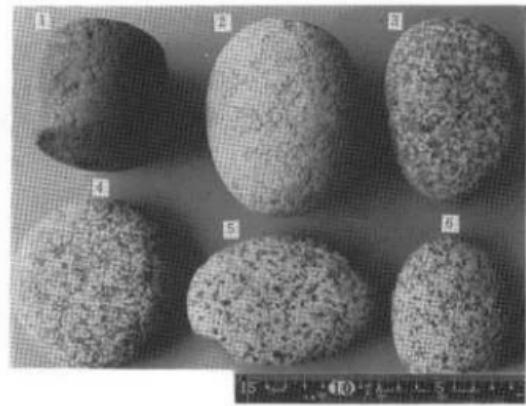
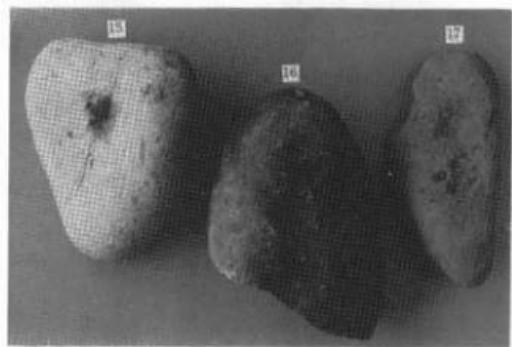
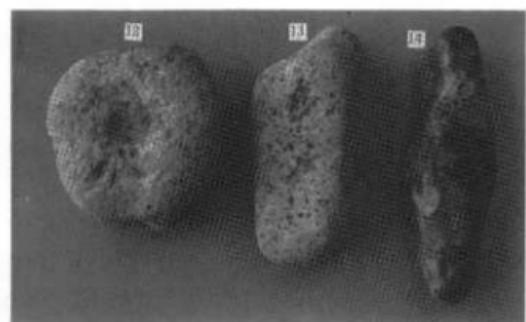
(自然石) 1~10



(クボミ石) 1~11



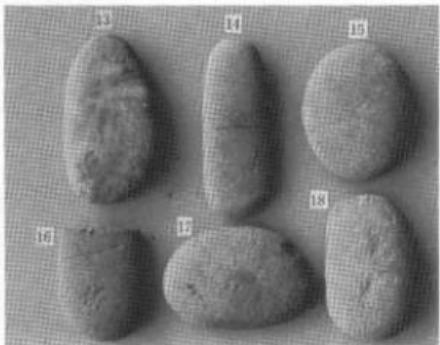
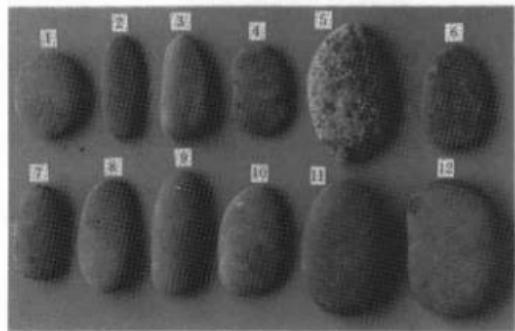
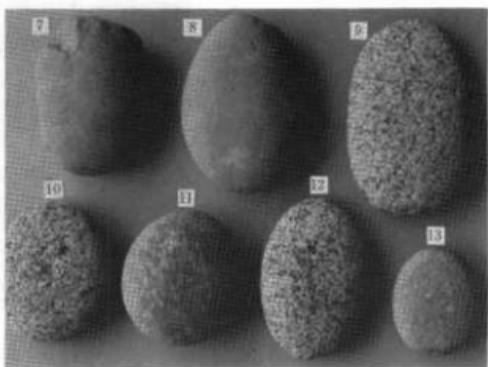
(クボミ石) 12~17  
(タタキ石) 1~6



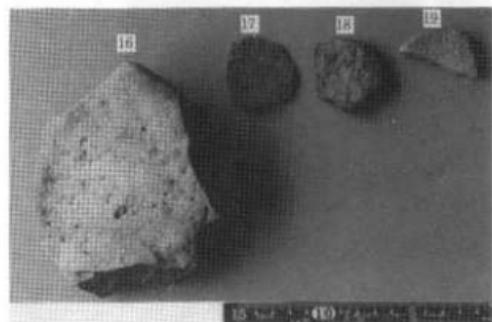
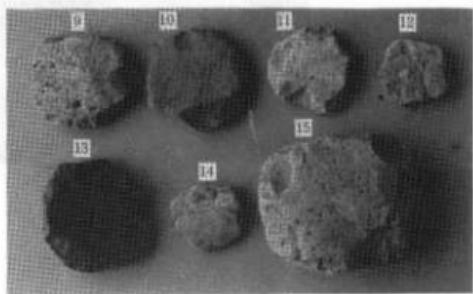
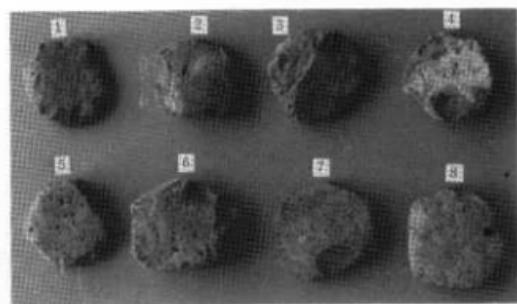
(タタキ石) 7~13

(打痕・擦痕のある扁平石器)

1~19



(円盤状扁平石器) 1 ~ 19



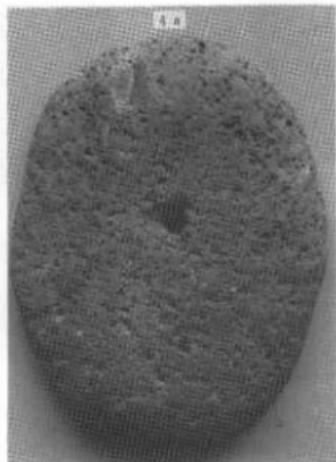
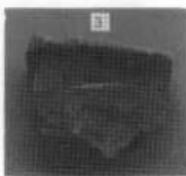
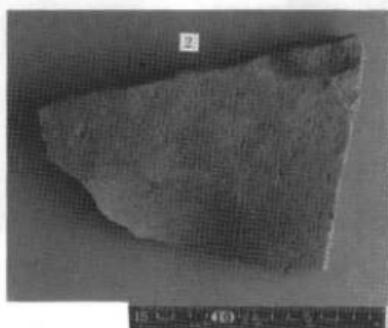
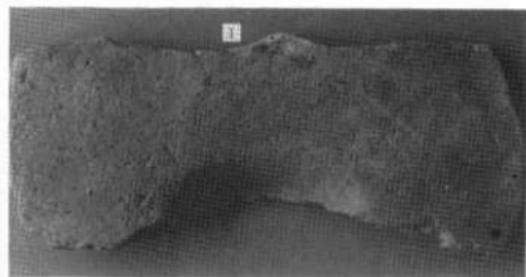
(a 面)



(b 面)



(石皿) 1~4



[ 石棒・石錘・砥石・半円形扁平石器・  
三角形石器・穿孔のある自然石・石弾 ]

S . P . L11

(石棒) 1 ~ 2



(石錘) 1 ~

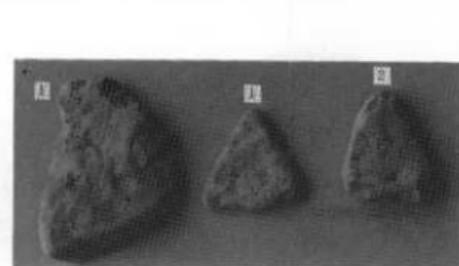


(砥石) 1 ~

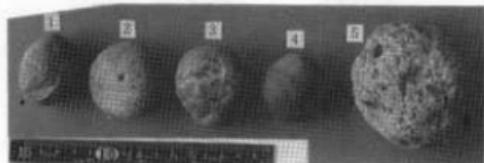
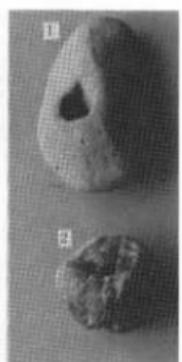


(半円状扁平  
石器) 1

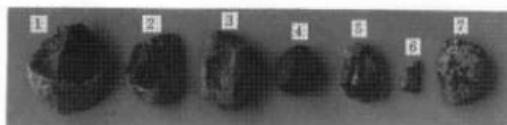
(三角形石器)  
(1 ~ 2)



(穿孔のある  
自然石) 2

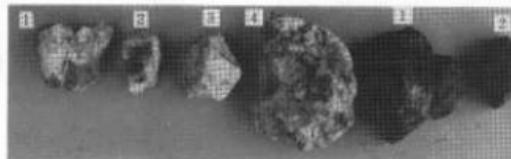


(黒曜石) 1～7

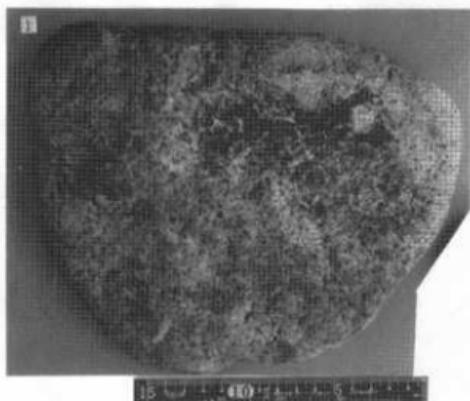
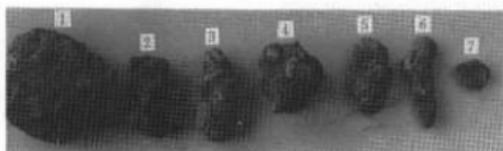


(緑色原石) 1～4

(鉄石英) 1～2



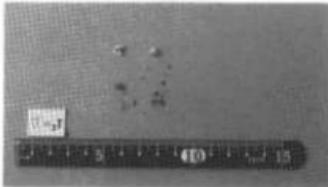
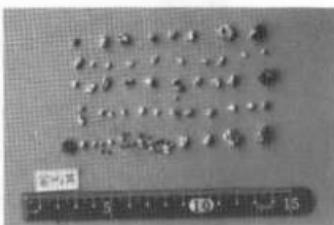
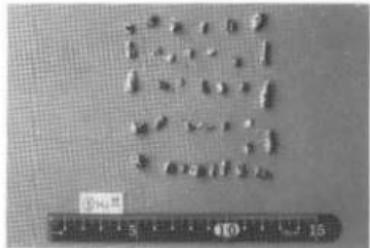
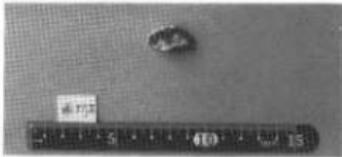
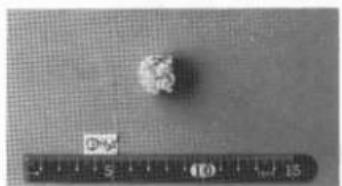
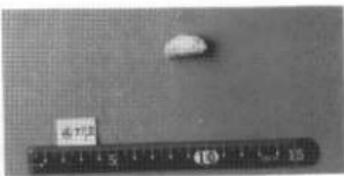
(鉄製品) 1～7



☆アスファルト付着自然石

[觀音林遺跡出土、骨類]

b.P.L1



五所川原市埋蔵文化財発掘調査報告書

第 13 集  
観音林遺跡（第8次）

○発行年月日 平成2年3月31日

○発 行 者 青森県五所川原市教育委員会

代表 教育長 釜 范 榕

○住 所 〒037 五所川原市岩木町12番地

○印 刷 (南) 西 北 印 刷



